

後片付けは前準備

富山県

福塚 ふくつか

俊之 としゆき



を中心に、公共のトイレ掃除を行なってきた、2022年5月で265回を数えました。

私が一番学んだことは、「後片付けは前準備」です。265回の掃除の後片付けを、一人で行ないました。最初は「なぜ自分か」と思っていました。回を重ねるごとに「させていたたく」気持ちに変わってきました。

実際に後片付けを行ないますと、当日の掃除の内容が手に取るようにわかるのです。道具の汚れ具合から、メンバ―の取り組みが目に見え、道具の手入れをすることで、道具に対する愛着が湧いてきます。

また、その日の天候によって、道具を干す場所や手入れの工夫もします。最後に、道具を収納場

所にきちんと収めると、これが次の掃除の準備になるのです。

ものごとには、準備・本番・後片付けがあります。始まりがあつて終わりがあり、この終わりは次の始まりでもあります。このとらえ方は、行事や仕事などのあらゆることに関係します。

このことは、私の人生の中でも大きな発見でした。それは単なる作業ではなく、掃除を越えて、私の生きる指針ともなりました。浮わついた気持ちになりがちな心を引き締め、見えないところで謙虚にふるまう心のよりどころとなりました。人生のリズムが良くなり、生活の質も向上します。

後片付けの重要性を、多くの人へ伝えていきたいと思えます。

(932-0441富山県小矢部市道林寺176)

「おやべ掃除に学ぶ会」の共同代表です。会は2000年3月の発足以来、毎月1回小矢部市内

「ゴミ拾い」で世界が変わった

宮城県

佐藤 隆一
さとう りゅういち



自分も成長し職場も改善したいと思って多くの本を読み、機会があればセミナーに参加していました。その場ではわかったつもりでしたが、結局何も身につけませんでした。

2018年51歳の春、ある方に掃除の会の存在を聞き、多賀城駅

周辺と東北一の繁華街仙台市国分町の活動に参加しました。下を向いてただゴミを探しました。先輩から「ゴミ拾いをしていると視野が広がるよ」と言われましたが、その意味が分かりません。

始めて3か月、あるときそれまでキョロキョロ探していたゴミが目飛び込んできました。ゴミが「拾って」とサインを発しているのです。何かが変わった瞬間でした。そのころから、神社や公共施設などのトイレ清掃へも参加するようになり、仲間との心磨きの交流が月3度となりました。

便器を磨き上げたときの爽快感は、いったい何なのでしょう。きっと心に積もった垢が、便器を磨くことにより洗い流されているのだらうと思います。また便器の

前にひざまずくことにより、傲慢になりかけた自分が謙虚に戻れた安堵かもしれません。

そのうち、月3回の活動だけでは物足りず、休日の早朝ゴミ拾いに加え、地べたにはいつくぼつての雑草取りも始めました。当初怪訝そうに見ていた方から、声を掛けてもらえるようになりました。以前では決して出会えなかった方々です。

掃除に出会って4年、世界が変わり始めています。いや自分が変わったのでしょうか。毎日が楽しく、すっかりお掃除のとりことになりました。心豊かな明るい人生に感謝しつつ、引き続きゴミを拾わせていただきます。

(983-0852宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-5)

「凡事徹底塾」に学んで

茨城県

田口 たぐち

初枝 はつえ



家族で靴修理の仕事をしています。2012年「古河掃除に学ぶ会」「凡事徹底塾」に誘われ、月一回参加するようになりました。

それをきっかけに、家でもトイ

レ掃除を始めました。最初は、きれいになるし、気持ちが良いと感じるくらいでした。そのうち、家の中やお店を掃除するようになりました。主人も息子も「凡事徹底塾」に参加するようになり、仲間と神社や地域の掃除をするようになりました。

道具をきれいに洗い、次に使うことを学んでからは、後始末が習慣になりました。道具を大切にすることを、最大限に活かして使う大切さも分かってきました。大きな汚れを取ると、次の汚れが見えてくる、そして小さな汚れも見えない所の汚れにも気付くようになりました。

10年経ち、コロナ禍の外出自粛の中、主人と話して、朝1時間徹底掃除を始めました。家の柱、

廊下、天井、階段、台所など小さく範囲を決めて掃除をしていくと、こんなに汚れが積み重なっていたのか、こんな所も汚れていたのかと気付きました。それは仕事の段取りや効率を改善することにつながりました。

お客様に喜んでもらえる「磨き」をしようと、靴の修理の仕上がりのできいさにも発展してきました。材料を無駄にしないなど、地球環境のことも考えられるようになりました。

コロナ禍で悩んだり不安にもなりましたが、徹底的に掃除すると、不思議なくらい解消しました。お掃除することが楽しくなってきました。これからもこの徹底掃除を続けていきます。

掃除道から学んだこと

台湾

徐 重仁
じょ じゅうじん



「台湾美化協会」の前身は、2003年に立ち上げた「台湾掃除に学ぶ会」です。その起源は、鍵山秀三郎相談役が創設した「日本を美しくする会」で、その趣旨はトイレの清掃を通じて精神を磨くことにあります。

掃除について、最初はあまり

なじみがありませんでした。後になつてだんだん、これはトイレをきれいにするというだけでなく、腰をかがめて他人がやりたがらないことを進んですることで、自分がより謙虚になるということに気づきました。掃除やこれまでにしたことのないことを本当に体験することができれば、実感が芽生え、成長のパワーが生まれます。

台湾で19年続いている清掃活動は、日本とのさまざまな民間交流を促し、日本の人々との関係もよくなっています。2013年4月末、美化協会は社会団体の型で運営をスタートし、1年に1度2日間の大規模清掃活動を行います。参加者800人余りのうち、日本から150人の友人が台湾

を訪れ、同時に300万円を協会に寄付してくれました。このほかにも、多くの企業界の友人や市民の参加で盛り上がり、皆の熱い反響に心の感動を覚ええました。

私はよく、人生の価値とは何かを考えます。人間は自分の利益を追求しているのではなく、もっと重要なことは、志や理想を同じくする人に出会い、一緒にひとつのことに取り組み、互いが支え合う家族のように感じられることです。

このような気持ちのつながりは難しいものです。自分のことだけでなく、見返りを求めずに喜んででき、しかも他人に貢献できることがあるならば、人生はもっと意義あるものになるだろうと強く信じます。

鍵山お掃除道に出会えた 喜びと誓い

京都府

大西^{おおにし}

由香^{ゆか}



私は、子どもの小学校PTA役員であり、男性会長に辛い対応を受けて、苦しんでいました。前向きな私も、軽いうつ状態であつたかと思えます。

そんな中、コーラス仲間の前田佳織さんが「早起きが得意な

ら、明日お掃除に来ない」と誘ってくださったしました。

初参加は、2008年5月の木屋町の街頭掃除でした。清々しい新緑と快晴が皆さんの素敵な笑顔と相まって、感動で涙がでたのを覚えています。

その日から秋の全国大会まで毎週土曜日の早朝、木屋町掃除に参加しました。凝り固まっていた心も、やさしく和らいでいきました。

当時、3人の娘の子育てや仕事中心の主人との悩みもありました。自分が変わるしかない、という思いはあるものの、どうしてもいのかわかりませんでした。木屋町街頭掃除に参加して、「苦手な掃除と向き合うことで、自分から変われるかもしれない」と

直感したことを覚えています。

それから14年。家庭においては、自分から整理整頓を意識し、日常の些事に丁寧に向き合うように努めました。自分が傲慢であつたかに気づきはじめてからは、掃除活動に大反対であつた主人も、「行ってらっしゃい」と口に出してくれるようになりました。

お掃除道をつづけていくなかで、自分の力なんて大したことではなく、大自然や皆さんのお陰様であることを切に感じて幸せいっぱいの日です。

お掃除に出会えて本当に良かった。相談役のご指導を直接受けた者として、「私」よりも「公」を優先する生き方を目指すことを誓います。

(615 8115 京都府京都市西京区川島流田町80-28)

鍵山秀三郎先生に 教えていただいたこと

富山県

藤本 ふじもと

雅明 まさあき



1999年の「十日町ハガキ祭り」が、鍵山先生との出逢いでした。

翌年3月、「おやべ掃除に学ぶ会」を立ち上げ、小矢部市内の小学校12校を中心に、毎月トイレ掃除を実施してまいりました

(2022年5月で264回)。

2006年9月の例会でのことです。校内巡回で玄関前を通ったとき、鍵山先生はさつと降りられて、下駄箱のズックをきれいに揃えていかれました。掃除現場に行くと、トイレから取り出して廊下に並べている用具を見て、ひとつひとつ向きを揃えて置き直されました。「人は見ているものに似てくる」を具体的に教えてくださったのです。

この様子はビデオに撮影しており、鍵山先生の行動は、私のマニュアルであり、ありがたい教えだと、つくづく思います。

今日、学校教育は学力中心主義で、人間教育即ち道徳教育が不十分であり、教師の指導力不足もその原因のひとつです。お掃除

(特にトイレ掃除)は道徳教育には最適ですので、徹底したお掃除を教育の柱にすべきと存じます。知識も大切ですが、知識を日常の実生活や社会生活に活かすこと、つまり実践することが大切です。

「人は見ているものに似てくる」と言われます。汚いゴミが街にあふれていけば、人の心も汚れてきます。豊かな人間社会を築くためには、地域社会をきれいにしておくことです。

鍵山先生から教えていただいた、掃除道の実践を通した「人づくり」を、後から来る世代に伝えていくことが私たちの役割です。「毎日少しずつ、できるだけ、私」が胸に、これからも行動していきます。

(932 0055 富山県小矢部市西町2番28号)

カネヨンキャップ

兵庫県

西村^{にしむら}

徹^{とおる}



小学校でのトイレ掃除をサブリーダーとして終えて、ほっとしていたとき、鍵山先生が見回りにいらつしやった。トイレの中を見られるのかと思いきや、鍵山先生は足元の洗剤カネヨンを手に取られた。

「カネヨンの口に、こうして白

い洗剤がついています。これをきれいに拭きます」

お話しされながら、洗剤の出る箇所とキャップの裏を自身で美しく拭かれ、静かにキャップを閉められた。このわずか一分ほどの時間が、とても記憶に残った。

それまで、トイレ掃除をしてきて、キャップの汚れまで考えたことがない。この時から、「カネヨンキャップ」の意味を考える。

鍵山先生は「西村さんはトイレ掃除を『トイレを美しくする』ことだけだと思っていませんか」とお伝えになったのか。もしかすると、これが鍵山先生の「凡事徹底」か。

職員室で道徳の授業について考えていたとき、ふと見た私の机

上は散乱していた。授業中、黒板の下がチヨークで真っ白に汚れているのにも気づかずに、子どもたちに向かつて掃除の話をしていった。

子どものころ、東井義雄先生から「見えるところばかりを気にし、飾り、ますます『本当のにせもの』になっていく」と教えていただいた。

「カネヨンキャップ」
今もふと立ち止まるとき、このことを思う。

鍵山先生のお教えは、こうして私の中にある。

(667 0021 兵庫県養父市八鹿町八鹿 302)



ドイツをきれいにする会

ドイツ

川崎 かわさき
英一郎 えいちろう



する会を知りました。

行政に相談して、2015年5月仲間10人程度でライン川沿いの清掃を始めました。日本を美しくする会と相談し、会名を決め、6月18日田中義人会長当時夫妻に訪独いただきました。

場所は、ごみが少ない川沿いかから中央駅周囲に変え、月一回、外国人含む日本人中心の4〜7名で活動。今年に入り、毎週土曜日にし、最近毎週土・日にしました。通行人に声をかけられたり、タクシー運転手が手伝ってくれることもありますが、参加者はあまり増えません。ボランティアには理解があっても、自ら参加する人は少ないようです。

人にもよりますが、ドイツ人は自宅前は掃除しても隣家の前まで

はしません。公共の場で飲食して、容器類を当たり前のように放置します。欧州の中では比較的まじめなドイツ人でも、その社会道徳は日本人には見ておれません。

陸続きの欧州は戦争の歴史です。したたかに生きるDNAが組み込まれているのでしょう。子どもは自己主張の教育を受けますが、しかしこれが自己中心に通じるどころもあると感じます。

日本人は、世界では際立った存在です。W杯でサポーターが客席を清掃したりしますが、自らのすばらしさを自覚する日本人は多くないと思います。戦後教育も影響していないでしょうか。

「掃除」という日本の美徳に誇りを持ち、このドイツで20年、30年と活動したいと思います。

ドイツ在住43年の63歳、デュッセルドルフで会社を経営しています。2014年ころ、小林正観さんの本で「素手で便器を洗うと運気が上がる」と読み、その後鍵山秀三郎さんの本に出会い日本を美しく